

令和6年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	74	学校名	仙台市立郡山小学校	校長名	橋本 顕嗣
------	----	-----	-----------	-----	-------

- 1 取組のタイトル、テーマ
自然とともに生きる郡山



- 2 取組の紹介
○学年ごとの取り組み

1・2年生

アサガオやミニトマト、サツマイモの栽培を通して、植物の成長を観察しました。また、季節ごとに変化する自然と触れ合うことで、身の回りの自然への関心を高める取り組みを行っています。

3年生

学校園で大豆を栽培しました。種まきから植え付け、収穫までを一貫して体験し、食料生産を体験的に学習しています。1月には豆腐作りにも取り組み、食の安全や地産地消を考えるきっかけ作りをしました。

4年生

地域で起きる災害を調べる中で郡山地区の特性を知り、防災マップを作成しました。作物を育てやすい環境と水害は深い関わりがあることに気づき、治水の大切さについて考えていました。

5年生

地域の農家の方から借りた水田を使って、稲作に取り組みました。無農薬でもち米を作る方法を農家の方から教わりながら、草取りや手入れ、収穫まで自分たちの力で行いました。冬には、臼と杵を使ってもちつきを行い、完成したもちを味わう際には、これまでの苦労や工夫したことに思いを馳せていました。



6年生

地域の農家の方から借りた畑を使って、有機野菜作りに取り組みました。鎌での草取りや手作業での害虫駆除など、農薬を使わない野菜作りの手間を実感しました。また、天候によっては畑に出向いて水やりや作物の世話をを行うなど、自然環境との付き合い方に考えさせられていました。収穫した野菜は、地域交流を兼ねて販売しました。



○全校での取り組み

自校給食であることを活かし、郡山地区の農家から仕入れた食材を紹介することで生産者を身近に感じられる働きかけをしています。また、給食委員会が実施する「給食週間」では、調理室での調理風景を紹介することで食に携わる人々への感謝の気持ちを育む取り組みをしています。

- 3 取組の成果（児童生徒の変容）

- ・学年ごとの自然に触れ合う活動の中で、自然の恵みが当たり前でないことに気付くとともに、自分たちを支えている自然環境や人々の努力に感謝する気持ちが養われています。
- ・給食の食材を提供している人々への感謝の気持ちが高まりから、食材を無駄にしないよう、残食を減らすように心がけている様子が見られます。